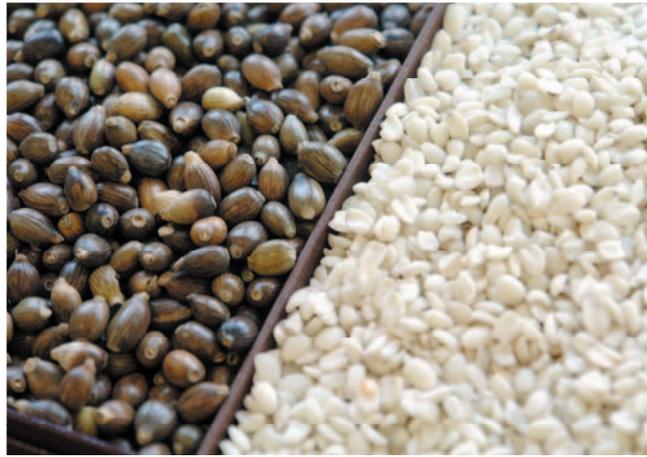


ひ み とく さん ひん
【氷見の特産品】

ハトムギ



名前はハトムギだけど、^{むぎ}麦ではなくイネ科の^か1年草^{ねんそう}です。原産地は^{さんち}東南^{とうなん}アジア。中国^{ちゅうごく}に伝わって^{つた}食糧^{しょくりょう}として栽培^{さいばい}されるようになりました。中国^{ちゅうごく}ではハトムギを^{こめ}米のように炊^たいたり、^{こな}粉を^{だんご}団子にして^た食べていたようです。

日本^{にほん}には、江戸時代^{えどじだい}の朝鮮半島^{ちょうせんほんとう}から^{つた}伝わったとされていますが、^{とうじ}当時^{おも}は主^{ちや}にお茶^のとして飲^のまれていたようでした。

氷見市^{ひみし}でハトムギ栽培^{さいばい}が始^{はじ}まったのは昭和60年^{しょうわねん}。転作用作物^{てんさくようさくもつ}として、^{ほそこえ}細越^{ちく}地区^{さいばい}で栽培^{はじ}がスタートしました。^{ほそこえ}細越^{みな}の皆さんは^{ちくせんたい}地区全体^{さいばい}で栽培^{とく}に取り組み^{ばいせん}、焙煎^{ちや}はとむぎ茶^うやはとむぎせんべい^{しょうひんか}などの商品化^{せいこう}にも成功^{せいこう}しました。

JA氷見市^{ひみし}が設立^{せつりつ}した農業生産法人^{のうぎょうせいさんほうじん}(株)JAアグリひみは、^{けん}県^しや市^しと協力^{きょうりょく}しながら、栽培^{さいばい}の普及^{ふきゅう}に取り組み^{とく}しました。そして平成18年^{へいせいねん}からはJA氷見市^{ひみし}がペットボトルタイプ^{ちや}のはとむぎ茶^うを^だ売り出^だし、この商品^{しょうひん}が大^{だい}ヒットしました。

また、ハトムギの^い医学^{がく}・^{やく}薬学^{がく}的な^{こう}効果^かを^{しょうめい}証明^{けんきゅう}する^{すす}研究^{けんきゅう}を進^{すす}めており、^{きのう}機能^{たか}の高いハトムギエキス^{くわ}を加^{あたら}えた^{しょうひん}新しい商品^{かい}の^{はつ}開発^{はつ}とハトムギの^かブランド化^{すす}も進^{すす}めています。